

栃木県看護協会でも公益社団法人化に向け積極的に事業に取り組んでいるところです。おかげで組織拡大において会員数が一万人を超えるました。

また、重点事業の中の「働きやすい職場づくり」では、ワークライフバランスの一環として日本看護協会と共同でワークショップを行いました。まだ継続中ではありますが参加された病院には有効であったと感じております。

この「働きやすい職場づくり」は、厚生労働省の4つの局が一緒になって「看護師等の『雇用の質』の向上に関する省内プロジェクトチーム」を立ち上げ、報告書が出されました。

栃木県看護協会でも栃木労働局とともに労務管理などについて話し合ったり、講義を受けたりしている段階です。

看護連盟の皆様と共に、働く看護職が安心して働ける職場づくりを推進していくことを願っております。

今年もよろしくお願い申し上げます。

超高齢化社会を見えていく



日本看護連盟会長
清水 嘉与子

明けましておめでとうございます。

昨年の東日本大震災は被災地のみならず、日本中に衝撃を与えました。命がけで患者さんを護った被災地の看護師たちとともに、全国から看護の支援の輪も大きく広がり、看護職の存在が大きく評価されました。日本訪問看護振興財団でも宮城県の仮設住宅に訪問看護師を派遣していますが、疾病予防・介護予防の分野での看護師の役割が大きいことを実感させられています。

こんな国一大事の中で政権交代後3人目の総理大臣が誕生したのですから驚きというしかありません。大震災・放射能被害からの復興、沖縄基地問題、TPP問題など野田内閣の目の前には課題山積です。野田総理には思い切ったリーダーシップを期待しましょう。

とにかく政治情勢が不安定な中でも10年後には団塊の世代が高齢期に入ることが明らかのように高齢化はどんどん進んでいます。超高齢社会にふさわしい医療保険制度を模索するすれば、絶対的に数の多い、しかも高度な知識や技術を併せ持った看護師たちを医療機関内だけでなく在宅も含めて充分活用することこそ急がれます。そんな政策を実現していくためにも、日本看護連盟はこれまで国政の場へ代表を送る活動を続けてきましたが、引き続き時期参議院選挙にむけてもその活動を続ける準備を進めています。是非皆様と力を合わせて連盟活動を発展させたいと願っています。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

